

所報



巻頭言 『ワークショップ型授業研究』で学校を変える

鳴門教育大学教職大学院 教授 村川 雅弘

「教師は授業で勝負する」は学部時代からの信条のようなものである。生活科や総合的な学習の時間、教科学習、ICT活用、カリキュラムマネジメント等のような課題であろうと実践研究の柱においてきた。いかにすばらしい計画を立てても授業が変わらなければ「絵に描いた餅」である。学校の指導を頼まれる際には、事前にできるかぎり多くの教室の日頃の授業を観ることから始めるようにしている。この10年、授業研究にもワークショップ型が導入され、授業が大きく変わりつつある。ちょうど思考力・判断力・表現力の育成や協同的学習の重視、言語活動の充実と相まって拡がり定着してきたと考えられる。

ワークショップ型授業研究には授業づくりを進めて行く上での様々な学びが組み込まれている。まず、授業参観の際には主体的・分析的な観察に繋がりやすい。数分の感想や意見を求められる従来型の事後研修と異なり、授業を構成する様々な要素（板書や発問、教材、個別指導、学習形態、学習環境等々）に関しての協議が予定されているので必然的に主体的・分析的に授業参観に臨むこととなる。協議前に参観メモを付箋に転記する。メモを他者に理解できるレベルに記述し直す必要がある。その時に概念整理が起こる。そして、記述した付箋を出し合う。同じ場面や事象であるにもかかわらず見方や捉え方が異なる。その時、根拠や理由を確認し合いたい。付箋を整理し小見出しを付け、グループ間の関係を矢印等で明らかにする。例えば、学習が停滞したとしたら、その直前の指導等に問題がある。授業はまさに生きもので様々な要因・要素が複雑に絡み合っ

ている。授業を構造的に捉える力が身に付く。分析結果を他のチームに説明する際に改めて自分の言葉で授業を関連付けて述べる。また、他チームの分析結果と比べて聴くことで新たな視点を学ぶ。こういった一連の活動が子どもたちに求められている言語活動を重視した協同的な学びと軌を一にしている。

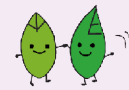


ワークショップ型授業研究の着想は総合的な学習の時間にある。例えば、地域の問題を取り上げ、互いに情報やアイデアを持ち寄り、協同的に問題解決を図る過程で子どもたちはコミュニケーション力や表現力、問題解決力等を身に付ける。教員研修においても、様々な学校課題の解決を協同的に進めていく過程において、教師としての力量を育んではいけないかと考えた。

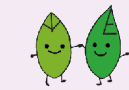
これまでワークショップ型授業研究を全国各地で展開し、共通の効果として「限られた時間の中で全員が意見を述べることができる」、「若い教師や教科が異なる教師も意見を述べやすい」、「授業のよさや成果、問題点、助言や改善策がバランスよく出される」、「授業参観の観点に沿って検討がなされる」、「成果や課題が形となって残る」がある。特に、教科の壁が厚かった中学校や高等学校での効果が大きい。また、ワークショップ型授業研究の手法は他の研修課題や子どもたちの協同的な学習に応用できる。授業改善、学校改革に有効に使いこなしていただきたい。

【目次】

- ・巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1 ・平成25年度教育センター研修の受講者の声・・・・・・・・・・・・・・・・P 2～P 3
- ・校内授業研究の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・P 2～P 3 ・平成26年度教育センターの重点事項・・・・・・・・・・・・・・・・P 4



教員の力量を継続的・日常的に育む校内授業研究の工夫

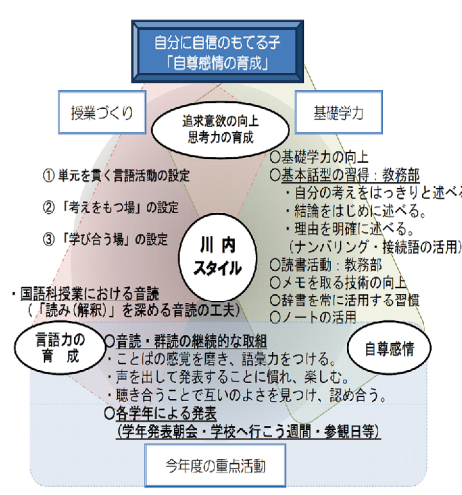


教育センターでは、校内授業研究の充実と活性化を図り、教員の授業力と組織力の一層の向上を推進するために、「サテライト研修」を実施しています。本研修の指定校の実践から特色ある取組を紹介します。

川内小学校

「提案授業で扱う指導事項の統一」と「学びを振り返るペアトーク」

教職員数が60名を超える本校は、誰もが共通の認識で授業研究に取り組めるように、全ての提案授業において、扱う指導事項を統一しています。また、提案授業や協議会を通じて得た成果が参加者自身の学びにつながるよう、協議会の最後に振り返りのペアトークを行っています。



【研究主任からのコメント】

教諭 井上 康子

今年度の授業研究では、学校研究主題から設定した視点に基づいて子どもの事実を見取することを積み重ねてきました。協議会ではグループやペアでの討議を取り入れ、子どもの事実の見取りやそれを踏まえた改善策の提示、さらに、授業研究を通しての自分の学びについて互いに交流を行ってきました。単なる授業の評価ではなく、子どもの学びの姿から見取ることの大切さや、自分ならこうするという代案を考えることの重要性に気付かされる協議会になっており、授業者にとっても得るところの多い研修となっています。授業研究及び協議会は、大規模校の本校にとって、教職員が一つのことに取り組める貴重な機会になっています。



協議会のテーマに基づき、グループ別で協議を進めている様子

【指導主事からのコメント】

ブロック研修会・全体研修会とも、提案授業で扱う指導事項（教科のねらい）を統一したことにより、全学年の教員にとって、授業づくりの成果や課題・悩みの共有が容易になりました。また、協議会において、具体的な改善案がより多く提案されるようになりました。さらに、「今日の授業研究を通しての自身の学び」についてのペアトークは、全ての先生方が自身の学びを言語化し、交流する場として機能しています。川内小学校にはいわゆる大規模校の範となる仕組みがあります。

五日市観音中学校

「授業研修月間」と「校内研修個人研究シート」

本校では、年間3回の授業研究協議会の後、「授業研修月間」を設け、各教員が自身の研究テーマに沿って自由に授業を参観できる機会を保障しています。授業参観後は、学んだことを「校内研修個人研究シート」に記録しています。

平成[]年度 校内研修個人研究シート

氏名: [] 教科: [] 学年: [] 担当: []

研究主題: []

個人研究: []

協議会: []

研修月間: []

校内研修個人研究シート

自分の授業参観記録

自分の授業参観日誌

自分の授業参観記録

自分の授業参観日誌

【研究主任からのコメント】

教諭 野上 歩美

今年度は、教員の役割分担を明確にし、全ての教員に取組に関わってもらうようにしたり、協議会が円滑に行えるよう、事前にグループリーダーとの打合せを行ったり、協議会に必要な道具類も細かく準備したりして、協議会の充実をめざしました。その成果として、同僚から「毎回の協議会の進め方など研究計画がよく練られており、形骸化せず新鮮な感覚で臨むことができた。」「校内授業研究・協議会は有効であった。授業者はもちろん参観者も熱心な姿勢であった。定期的自分自身の授業を振り返る機会となり有意義であった。」などの意見が出ています。今後は、校内授業研究の取組を通して、「組織力」、「チーム力」の向上を図っていきけるよう努めます。



【指導主事からのコメント】

授業協議会において活発に協議する先生方の姿が、現在の五日市観音中学校の勢いを表しています。これは、授業を相互に参観し合う取組から醸成される同僚性も、寄与していると思われます。また、教員が自身の研究テーマに沿って、学んだことを「校内研修個人研究シート」に記録することは、自身の実践を振り返り、学びをその後の授業へと生かすための有効な手立てと考えます。まだ取組の途上ではありますが、自身の成長を可視化することで、学び続ける意欲の向上が期待されます。



ワークショップ型で拡大学習指導案に付箋紙を用いて成果と課題をまとめ、全体に発表している様子



平成25年度 教育センターの重点事項に係る研修を受講した先生方の声



1 「いじめに関する総合対策」に係る研修

『小学校生徒指導主事研修』では、生徒指導主事としての役割や校内生徒指導体制の構築について研修を行いました。

研修を受講して、子どもの理解と、学校体制で生徒指導を行うための組織づくりについて新たに学び直し、所属校での実践に役立てることができました。特に夏の研修で学んだことを生かして、校内研修を行ったり、チーム会議を何度も行ったりすることで、子どもに対する理解が深められました。草津小学校では、予防的生徒指導の取組として、次の三点を重点として実践しています。

- (1) 教員で共通理解をし、学習規律を定着させています。ルールやマナーを徹底させるため、児童会と連携した取組を進めています。
- (2) 子ども達同士で相互に支え合うピア・サポート的活動の実施や中1ギャップをなくすための小中連携等を通して、きずな作りを行っています。
- (3) コミュニケーション力を付けるため、生徒指導の三機能を取り入れ、児童に自信をつけさせるとともに、ペアトークやグループトークなどのコミュニケーションを図る機会を多く設定しています。

また、9月には、研修で学んだ「ちくちく言葉」や「キラキラ言葉」を子どもたちに考えさせながら、いじめをなくすためのスローガンを作成し、学校全体でいじめ撲滅運動に取り組むことができました。今後も、児童が主体となった活動を充実させながら、教職員で指導方針のベクトルをそろえて、組織的な対応を行ってまいります。



草津小学校 教諭 吉岡 由里子

2 子どもの理解に関する研修

『子ども理解研修Ⅴ（人間関係づくり）』では、予防的生徒指導のもとで、子どもたち同士の人間関係づくりや居場所づくりのヒントとなる学級経営について研修を行いました。

研修では、初対面の先生方とグループになり、短い時間の中でどのくらい仲良くなれるのか不安でしたが、終わってみると、最後の作成物まで協力して作り上げ、皆笑顔で終了することができました。それは、(1) 出会い、(2) 相手理解と自己表現、(3) 自己の成長の3ステップに加えて、必然的に関わる場面を無理なく設定されていたことが要因だと思えます。幼稚園に戻り、(1)のステップで、スリーヒントゲームをグループ活動として取り入れて保育を行いました。具体的には以下の四つの手順で行いました。

- ① 『りんご』『おふろ』『えんそく』等のお題を教師が各グループに提示する。
- ② グループごとに集まり、お題に対するヒント（『りんご』なら「あかい」「かわをむいて食べる」等）を三つ考える。
- ③ 考えたヒントを、カードに書いて教室のどこかに隠す。
- ④ グループごとに、他のグループが書いたヒントカードを探し出し、そのヒントをもとにお題を当てる。

どのグループも、ヒソヒソ声でヒントを考え、小さな秘密を共有しているワクワク感があっていいと思います。また、仲間の意見を聴いて話し合いを進めるリーダーが育ってくるようになり、回を重ねるごとに子どもたちの成長が見られました。これからも、子どもたちの良質な人間関係をつくる際の参考にしたいと思います。



川内幼稚園 教諭 加藤 萌

3 学校づくり推進のための人材育成研修

『教育活動推進リーダー育成研修』では、ミドルリーダーとしての力量を高め、教育活動を円滑に推進するために組織を動かすことができる人材を育成することを目的として研修を行いました。

『教育活動推進リーダー育成研修』では、ミドルリーダーとしての力量を高め、教育活動を円滑に推進するために組織を動かすことができる人材を育成することを目的として研修を行いました。

本研修を通して、研究の進め方の具体を学んで綿密なプランニングができたこと、他の受講者との活動や交流から多くのヒントや励ましを得られたことが大きな自信につながりました。また、全てを自分だけで解決しようとするのではなく、校長先生や教頭先生への報告や相談、教務主任の先生や生徒指導主事の先生との連携等、組織として改革に臨めたことで、自身の組織への所属感やミドルリーダーとしての自覚も高まりました。



安佐南中学校 教諭 山根 悦子

4 研修への横断的な参加

全国的に著名な講師を大学などから招聘する研修は、推奨研修として、他の研修からも受講できるようにしました。

本年度は24本の研修において横断的に研修を編成しました。

- 同じ研修内容を校長と教頭の双方が受講できたことは、同じスタンスで学校経営に還元でき、効果的だと感じました。
- 教頭4年目以降になると研修の機会も少ないため、悉皆研修の内容を受講できる機会を作っていただけで感謝しています。



「校内授業研究」をテーマに、大阪教育大学教授 木原俊行先生をお招きし、『新任副校長・教頭研修』、『副校長・教頭研修』及び『園長・校長研修』のそれぞれの受講者に研修を受講できる機会を設定しました。

5 若手教員の研修

『初任者研修』では、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得ることを目的として研修を行いました。

年度当初は、「満面の笑み」で自分を迎えてくれた子どもたちとの出会いの喜びもつかの間、自分自身の教師としての力量に対する不安が一杯でした。日々の授業や生徒指導、保護者対応など悩みが付きませんでした。そんな中、心の支えとなったのは、ともに初任者研修を受講する仲間の存在でした。同じ悩みを抱えた者同士、励まし合いながら懸命に模索する中で、不安はやる気へと変化していきました。「傾聴の基本」の研修では、相手の気持ちをしっかりと受容すること、相づちをうち返すことを、また、『子どもの理解研修Ⅰ（ほめ方・しかり方）』の研修では、イガイ言葉やなくす方法等を学び、学級の子どもの合わせながら、できることから実践していきました。研修で学んだことを実践する中で、少しずつ子どもを見る目が培われ、対応にもゆとりや見通しをもつことができるようになりました。

1年間の初任者研修を振り返って、今思うことは、「教育的瞬間」は「出会いのチャンス」であり、その全ての出会いは、「子どものため」に生かされるものということです。これからは、「教育的瞬間」を見逃さず、子どもたちとつながっていきたいと思います。



福木小学校 教諭 高野 照



平成26年度 教育センターの重点事項を紹介します。

平成26年度、広島市教育センターは、「倫理意識の向上とコンプライアンスの徹底」を基底に、右図の5点を重点事項とします。

1

子どもの理解研修の充実

いじめ・不登校、生徒指導、人権教育をはじめ、子どもの理解を図る研修内容を充実します。

2

学力向上研修のシリーズ化

New!

調査結果等から明らかになった課題に対応した学力向上策の立案に関する研修を実施します。

3

「いじめに関する総合対策」に係る研修の充実

カウンセリングやアセスメントの方法をはじめ、いじめ防止のための内容を充実させます。

4

学校づくり推進のための人材育成研修の充実

教育活動推進リーダー育成研修や学校運営推進リーダー育成研修を通して、中核となる教員を育成します。

5

若手教員の育成

「初任」「2年次」「3年次」と系統性を重視した研修を実施し、教師としての基礎・基本の定着を図ります。

倫理意識の向上とコンプライアンスの徹底



教育委員の視察、他県の教育センターからの視察を受けました。

教育センターでは、平成25年度に広島市教育委員をはじめ、他県からも視察訪問を受けました。広島市の特色ある取組が、全国の教職員の研修の充実につながることは、大変光栄な事です。また、同時に他県における特色ある取組も積極的に取り入れていきたいと考えています。

- 広島市教育委員
趣旨：教育センター事業について
- 青森県学校総合教育センター
趣旨：いじめに関する総合対策について
- 和歌山県有田地方指導主事連絡協議会
趣旨：教員研修体系について
- 島根県教育センター
趣旨：土曜開館（特別セミナー）について



小・中教科研究会との連絡協議会を実施しました。

教育センターの事業等について、小・中学校教科研究会との連絡協議会を行いました。会の中では、教育センターの研修を受講しやすくするための提案として、申込み期限や広報の改善などがあげられました。また、実践型の研修に対して受講者の評価が高いことから、各教科研究会でも参加を呼びかけたいという声をいただいております。このように、意見の交流を行うことで相互理解を図り、教育センターは今後も事業改善を図っていききたいと思います。

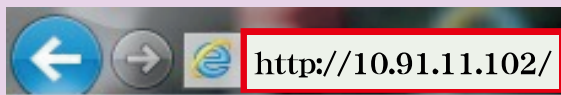


内部 Web ページをリニューアルしました。

教育センター内部Webページは A か B のいずれかの方法で閲覧できます。

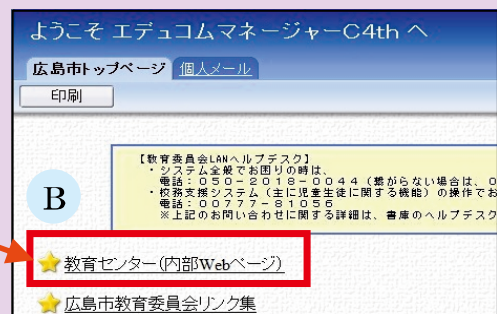
A

アドレスバーに直接アドレスを入力する。



B

教育委員会LANのトップページのリンクをクリックする。(内部Webページは、教育委員会LANでのみ見ることができます。)



題 字

元宇品小学校
校長 岩村 欣治

表 紙 絵

仁保中学校
教頭 橋本 忍

編集・発行/広島市教育センター

〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL (082) 223-3563 FAX (082) 223-3580

E-mail:center@e.city.hiroshima.jp

外部Webページ:http://www.center.edu.city.hiroshima.jp/

内部Webページ:http://10.91.11.102/

広X6-2012-413(2) 再生紙を利用しています。